

社会科学学習指導案

I 単 元 日本 の 歴史－条約改正と近代国家への道－

II 考 察

1 教材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人たちの働きについて理解と関心を高めるようにする。
ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

(2) 培われる主な資質・能力

- ・歴史上の事象に関わる人物の働きや文化遺産などに関心をもち、意欲的に調べるとともに、我が国の歴史や伝統の大切さ、歴史を学ぶ意味を考えようとする態度
- ・歴史上の事象から問題を見出して追究し、人物の願いや働き、文化遺産の意味を考え、表現する力
- ・歴史上の事象についての確に調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりする力
- ・自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きを理解する力

(3) 教材や学習対象の価値

本小単元は、条約改正とその背景となる事象やそれらに関わる人物の働きについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する学習である。その価値は以下のとおりである。

明治維新により欧米の文化や技術を取り入れて近代国家を目指した我が国にとって、欧米諸国との不平等条約は大きな障害であり、条約改正は政府の悲願であった。この条約改正に成功するまでの歴史的背景として、大日本帝国憲法の発布や日清・日露の戦争、科学・技術の発展といった事象を調べることで、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことについて具体的に考えることができる。また、これらの事象や関わる人物を中心として調べることは、明治後半から大正期における我が国の歴史や先人たちの働きを理解するとともに、我が国の歴史への興味・関心を高めることができる。

一方、当時の我が国に国力の充実や国際的地位の向上が見られる反面、足尾鉍毒事件や『女工哀史』『蟹工船』に代表される社会問題がある。これらの相反する2つの事象を基に、産業の発展と国民生活の安定とを比較して自分なりに優先すべき方針を考えることは、当時の人々の願いや、自分たちの生活の歴史的背景への理解を深め、歴史を学ぶ意味を考えようとする態度を養うことにつながると考える。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「日本の歴史－戦争と日本の様子－」で、日華事変や我が国に関わる第二次世界大戦について調べ、戦争により国民や諸外国が大きな被害を受けたことを理解する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「日本の歴史－明治の新しい世の中－」で、幕末から明治初期における黒船の来航、明治維新、文明開化等について西郷隆盛や木戸孝允、大久保利通、福沢諭吉らの活躍を通して調べ、明治政府が目指した国づくりについて考え、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解する学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・明治政府による諸改革の様子について、西郷隆盛や木戸孝允、大久保利通らの活躍を意欲的に調べ、幕末から明治初期における我が国の歴史への興味・関心を高めてきた。このような子どもたちが、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学・技術の発展やそれに関わる人物の働き等を意欲的に調べ、明治後期から大正期の我が国の歴史への興味・関心を高められるように、ノルマントン号事件の絵図や主な国の関税の違いを示したグラフ、条約改正に関わる略年表を基に、疑問や調べたいことを話し合う活動を設定する。
- ・欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めた明治政府の政治の特色について、欧米諸国による圧力と明治政府による諸改革の内容とを関連付けて考えられるようになってきている。このような子どもたちが、条約改正の成功と大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働きとを関連付けて考えられるように、自分の考えを整理する図を活用して条約改正に成功した理由を話し合う活動を設定する。
- ・明治政府による諸改革の様子や欧米の文化の取り入れについて、大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允、福沢諭吉の活躍等の収集した情報をまとめられるようになってきている。このような子どもたちが、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働き等について収集した情報をまとめられるように、自分の考えを整理する図を用意する。
- ・明治政府による諸改革の様子や我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解してきている。このような子どもたちが、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことの背景に多くの国民の負担があったことを理解できるように、自分の考えを整理する図を活用して、産業の発展と国民生活の安定について優先すべき方針を話し合う活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 自分なりに考えた条約改正に成功した理由についてグループや学級全体で話し合うことを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。
- 2 準備 自分の考えを整理する図、短冊、紡績工場の写真、女工小唄の一節（訳文付き）
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
1 本時のめあてをつかむ。	○「みんなで話し合って共通課題の答えをより

・日本が条約改正に成功した理由を考えなければ、みんなで話し合って、もっと納得できるものにしていきたいな。

2 グループごとに条約改正に成功した理由を話し合ってまとめる。

・条約改正に成功した理由は、日清・日露戦争に勝ったことや北里等の科学者が活躍して、日本を外国が見直したからだと思うよ。

・確かに、機械式の工場が増えて輸出が多くなったことも日本の力を見直したと言えるな。

・科学・技術が発展したり産業が盛んになって輸出が増えたりしたことは「豊か」という言葉でまとめるのはどうだろう。

・グループとしては、「日本が豊かになって戦争に勝ったから」という答えにしよう。

3 学級全体で条約改正に成功した理由を話し合う。

・他のグループは、ドイツに見習って憲法をつくり、政治を行うようになったことも日本を見直すきっかけになったと考えたのか。

・なるほど、日本が韓国を植民地として支配したことも欧米が「日本が力を付けてきた」と思う理由の一つになるだろうな。

・「政治が整った」「軍事力が強くなった」「科学者を多く出せた」「豊かになった」は、「国の力が上がった」「欧米が日本を見直した」にまとめられそうだな。

・条約改正に成功した理由は、たくさんの面で国の力が上がって欧米諸国が日本の実力を認めたからと言えるな。

4 本時のまとめをする。

・自分の考えがもっと納得できるものになったな。でも、日本が外国から認められたとてもよい時代なのに、どうして女工さんたちは「寄宿舎暮らしは地獄だ」「主任が鬼だ」と歌っていたのだろう。

・次の時間は、日本の国力は上がったけれど、そのために働いた人々について知りたくなかったな。

よくしよう」という本時のめあてをつかめるように、共通課題の確認と本時の活動を問いかける。

☆条約改正に成功した理由についてグループで考えをまとめられるよう、条約改正に成功した理由を話し合う活動を設定し、グループの考えを短冊に記述するよう促す。

☆自分なりの条約改正に成功した理由とそこに至るまでの事実や解釈を友達に明確に伝えられるように、自分の考えを整理する図を友達に見せながら説明するよう促す。

☆条約改正に成功した背景に関する新たな事実や解釈を得られるように、条約改正に成功した理由について考えの異なる子ども同士で3～4人のグループを編制する。

○各グループでまとめた条約改正に成功した理由とそこに至るまでの事実や解釈を共有できるように、短冊を掲示し、説明するよう促す。

○我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことに気付けるように、各グループの条約改正に成功した理由の共通点を問いかける。

○より納得できる自分の考えをまとめられるように、話し合いを基にした条約改正に成功した理由をノートに記述するよう促す。

評価項目

我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが、条約改正の成功に結び付いたことを記述したり、発言したりしている。

<ノート・発言(4)>

○自分なりに考えた条約改正に成功した理由がより納得できるものになったことを自覚できるように、自分の考えの変容について問いかけ、納得できる考えをもてたことを賞賛する。

○国民の負担の様子について調べるといふ次時への見通しをもてるように、紡績工場の写真と女工小唄の一節を提示し、次時は産業の発展に伴う社会問題について考えていくことを伝える。

指導と評価の計画（全9時間）

目標	条約改正の成功に関わる人物の働きやその意味について考え、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。			
評価 規準	<p>(1) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働きに関心をもち、調べようとしている。</p> <p>(2) 条約改正の成功について、予想や学習計画を立て、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働きと結び付けて考えたり、産業の発展に伴う社会問題から考えたりして、表現している。</p> <p>(3) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の絵図・年表・文章資料等を活用し、必要な情報を読み取ったり、まとめたりしている。</p> <p>(4) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働きにより、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことや、そのために多くの国民の負担があったことを理解する。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
つかむ	1	○条約改正やその内容について知り、資料を基に疑問点や調べたいことを考え、課題意識をもつ。 共通課題 なぜ条約改正できたのだろう。	☆条約改正に成功した理由やそれに関わる人物の働きについて疑問や調べたいことを考えられるように、ノルマントン号事件の絵図や主な国の関税の違いを示したグラフ、条約改正に関わる略年表を提示する。	◇条約改正に成功した理由やそれに関わる人物の働きについて、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。＜ノート・発言（1）＞
	1	○条約改正に成功した理由を予想し、学習計画を立てる。 ＜調べる観点例＞ ・政治の仕組み（政治） ・外国との関わり（外交） ・科学・技術の発展（科学・技術）	○条約改正に成功した理由を解決するための学習計画を考えられるように、帝国議会、日露戦争、八幡製鉄所についての絵図や写真、明治・大正期の略年表からもった予想を共有し、調べる観点を話し合う活動を設定する。	◇共有した予想を基に、条約改正の成功に結び付いた事象について、調べる学習計画を記述したり、発言したりしている。＜ノート・発言（2）＞
追究する	3	○学習計画に沿って条約改正の背景について調べ、分かったことを発表する。	☆条約改正の背景とそれに関わる人物の働きについて、適切な資料を基に情報収集できるように、調べる観点に関わる事実や人物の絵・写真資料や自分の考えを整理する図を提示する。	◇大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学・技術の発展やそれらに関わる人物の働きについて、資料を活用して読み取った必要な情報を付箋紙に記述している。＜図（3）＞
	1 + 家庭	○調べたことを基に、条約改正に成功した理由についてまとめる。（本時） ○我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことについて考え直し、課題意識をもって調べる。 発展的な共通課題 産業の発展と国民生活のどちらを優先すべきだろう。	☆我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが、条約改正の成功に結び付いたことを理解できるように、自分の考えを整理する図を活用して条約改正に成功した理由について話し合う活動を設定する。 ☆産業の発展に伴う社会問題の視点から、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことについて考え直すことができるように、足尾鉍毒事件や女工の労働条件についての資料を提示する。	◇我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが、条約改正の成功に結び付いたことを記述したり、発言したりしている。＜ノート・発言（4）＞ ◇産業の発展に伴う社会問題について調べたことを基に、自分の考えを選択・決定し、その理由を記述している。＜図（2）＞
まとめる	1	○自分の立場とその理由を考え、優先すべき方針を決める。	☆我が国の国力が充実し国際的地位が向上した背景に多くの国民の負担があったことを理解できるように、自分の考えを整理する図を活用して産業の発展と国民生活の安定とを比較して優先すべき方針を話し合う活動を設定する。	◇我が国の国力が充実し国際的地位が向上した背景に多くの国民の負担があったことに対する自分なりの考えを発言したり、記述したりしている。＜ノート（4）＞
	1	○単元のまとめテストをする。		